

JLEM News Letter Vol.37



第42回日本語教育方法研究会開催

発表 53 件 参加者 150 名

第43回は藤女子大学にて

2014年3月15日(土)、第42回日本語教育方法研究会が横浜国立大学で開催されました。河野俊之氏はじめ、横浜国立大学の皆様、大変お世話になりました。

当日は、研究会と併せて総会が開かれました。また、前日3月14日に運営委員会が開かれました。議事については、このレターの記事をご覧ください。

次年度、会長・事務局が交代します。新会長として名古屋大学の衣川隆生氏が、事務局として北海道大学の小河原義朗氏が就任されました。今まで会長を務めてくださった川村よし子氏、事務局の金庭久美子氏、本当にありがとうございました。

次回の研究会は、2014年9月6日(土)藤女子大学において開かれます。皆様ふるってご参加ください。

開催を終えて

河野 俊之
(横浜国立大学)

2004年3月以来の、横浜国立大学での開催でした。前回と違い、耐震工事ですべてきれいになった建物で開催できたこと、私の授業に関する事で、うちの大学院生が発表できたこと、妻が尽

力してくれた懇親会にご満足いただいたこと、そして、事務局の金庭久美子さんの花道を飾れたことなど、私にとっても大変な喜びです。

今回、発表が、50件以上ありました。私は、日本語教育方法研究会では、できるだけ発表したいと思っており、今回も発表させていただきました。今回も、発表してよかったと思っています。同じように思ってくださいる方がますます増えることを願っております。

また、今回、会場校をお引き受けしたのが3回目です。会場校をお引き受けくださる方が増えることも願っております。

次回開催にあたって

副田 恵理子
(藤女子大学)

次回第43回JLEMは9月6日(土)に藤女子大学北16条キャンパスで開催されることになりました。藤女子大学は北海道唯一の四年制女子大で、北海道内では「お嬢様大学(実際にどうかは別ですが…)」として、また「中島みゆきの母校」として知られている大学です。2学部のみの小規模な大学ではありますが、今年度より新しい日本

語コースを立ち上げ留学生受入れ人数を増やすなど国際交流に力を入れる中で、日本語教育に携わる皆様に研究発表の場としてご活用いただけることを大変嬉しく思っております。

キャンパスは札幌駅から徒歩17分、地下鉄だと2駅目のところにあります。9月初旬はすでに涼しくなっている頃かと思しますので避暑を兼ねて、また、秋鮭やじゃがいも・とうきび(とうもろこし)など秋の味覚を楽しみにお越しいただけると幸いです。多くの方のご参加をお待ちしております。

第三回 JLEM 優秀賞

「日本語教育方法研究会優秀賞」(以下、優秀賞)は、以下の基準において優れた内容の発表を行った会員に対して授与されるものです。

- (1) 課題の設定、あるいはその検証の視点に独自性がある。
- (2) 教育実践、あるいは研究成果に今後の発展性が見込まれる。
- (3) ポスターが視覚的に見やすく、内容の理解を促進している。

今回も、第一回・第二回と同様の基準で、長時間にわたり選考を行いました。誠に残念なことに、「該当者なし」との結論に至りました。

上記(2)あるいは(3)にあたる発表は多く挙げられたため、「奨励

賞」「ポスター賞」を授与できる可能性はないか検討したのですが、これは、「優秀賞以外にも顕彰に値する発表があったと判断された際に」臨時に与えられる賞であるため、適用を見送った次第です。

次回研究会では、多くの受賞候補があげられることを、運営委員一同強く願っております。会員の皆様の、より一層のご活躍を祈念致します。(松崎寛)

総会報告

総会は3月15日(土)に、今回の研究会の開催校である横浜国立大学にて行われました。総会には150名近い参加者がありました。定足数(3月7日時点での会員総数555名の10分の1以上)を満たしていたため、総会として成立しました。すべての議案に関して、承認されましたので、ここにご報告いたします。

[報告事項]

1. 会員管理システムの導入

現在、会員管理システムを開発中です。新しいシステムによって会員各自で住所変更や会費支払い状況の確認等が行えるようになります。システム完成次第、改めて皆様にご案内を差し上げます。なお、今後メール経由での連絡が増えることとなりますので、メールアドレスに変更等があった場合には、至急事務局あてにご連絡ください。

2. 会誌バックナンバー

会誌掲載論文がCiNiiに搭載され、会誌発行後1年を経過したものについては無償公開という形になったことを受け、発行後2年を経過した会誌については、保存しないことになりました。

3. 次回の研究会

今回の研究会は、2014年9月6日(土)に、藤女子大学で開催いたします。開催委員は、藤女子大学の副田委員です。多くの皆様の参加をお待ちしています。

4. 会費について

会計および会員管理の業務の軽減のため、今後研究会会場での会費の受け取りは、原則として行わない形にします。会費納入は、ゆうちょ銀行への振込の形で行っていただけますよう、お願いいたします。(ゆうちょ銀行に口座があれば振込手数料は無料です。)

[審議事項]

1. 決算および予算について

2013年度決算および2014年度予算は、原案通り可決されました。なお、2014年度の予算案には、会員管理システム構築費55万円を含む会員管理費60万円を計上しました。また、会員の一人ひとりにパスワードを書面で連絡するための通信費が必要なため、通信費を例年より増やし、10万円を計上しました。

2. 会長・事務局の交代について

会長川村よし子および事務局金庭久美子の任期満了(1期2年で2期まで)に伴い、会長と事務局が交代いたしました。新会長には、衣川隆生氏(名古屋大学)、新事務局には、小河原義朗氏(北海道大学)の就任が承認されました。

3. 運営委員の交代について

新運営委員として、中井陽子氏(東京外国語大学)、内藤真理子氏(関西学院大学)のお二人が、運営委員会で選出され、総会で承認されました。

また、小林由子氏、清水昭子氏、保坂敏子氏の退任が承認されました。小林さん、清水さん、保坂さん、長い間ありがとうございました。(川村よし子)

運営委員会報告

運営委員会は、研究会の前日の3月14日(金)に横浜国立大学において開かれました。23名の運営委員のうち、15名が参加しました。

今回の運営委員会で決まったことのうち、総会報告と重複しないことのみ、以下にご報告いたします。

①運営委員の担当業務の交代

会長及び事務局の交代に伴い、担当業務を次のように変更する。
ニュースレター担当：本郷智子氏
企画・広報担当：小野正樹氏・馬場眞知子氏・金庭久美子氏・川村よし子

また、中井陽子氏・内藤真理子氏には、総会での承認後、編集の業務を依頼する。

②運営委員の担当業務の任期

担当の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。再任の場合には1年単位で退任することも可とする。なお、退任後1年間は、オブザーバー役を務める。

③会誌原稿の英文要旨

英文要旨のネイティブチェック促進のため、原稿提出時にネイティブチェックに関する記載欄を設けた。その結果、英文要旨については全体として質の向上が見られた。ただ、英文要旨に合わせて日本語要旨が規定より極端に短いものが提出されるという弊害も生じた。次回からは、執筆要項に、日本語要旨の長さを守ること、日本語要旨と英文要旨の内容とは、完全に一致する必要はないことを明記する。(川村よし子)

事務局よりご連絡

●事務局移転のお知らせ

2014年4月1日より事務局が北海道大学国際本部留学生センター小河原義朗研究室に移転致しました。私、小河原義朗（北海道大学）が事務局運営にあたります。任期は2016年3月31日までです。皆様には慣れるまでご不自由やご迷惑をお掛け致しますが、ご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

●メールアドレスの確認

JLEMでは、web上での会員管理システムの導入を進めており、本年度中には開始する予定です。これに伴って、昨年12月に全会員宛（会員管理に登録されているメールアドレス宛）メール送信テストを行いました。以下の方々からメールが戻ってきてしまいました。大変お手数ですが、至急事務局まで新メールアドレスをお知らせください。また、お心当たりの方は事務局までお知らせください。

事務局 <jlem-ml@tiu.ac.jp>

掛川淳一、蔭山峰子、坂口清香、篠崎佳子、中川祐香、中村英三、二ノ宮崇司、増井世紀子、山本いずみ、吉田吏沙、脇坂真彩子

なお、メール送信テスト以降にメールアドレスを変更なさっている方は、至急事務局までご連絡ください。実際のパスワードは、会員管理システムの運用開始の2014年6月以降に郵送にてお知らせすることになります。詳しくは、次の「会員専用サイトおよび暫定パスワードのお知らせ」をご覧ください。

（小河原義朗）

会員専用サイトおよび 暫定パスワードのお知らせ

かねてよりお知らせしてまいりましたweb上でのJLEM会員管理システムを、いよいよ本格的に運用することとなりました。

今後は、このシステムによって会員の皆様ご自身で（1）会員個人情報の変更、（2）会費の納入状況確認と領収書の取得、（3）刊行物の発送状況確認、（4）退会申請、を管理することができます。

このサービスを利用する際には、会員番号とパスワードの入力が必要です。詳しくは、別便でお送りする「会員専用サイト及び暫定パスワードのお知らせ」をご覧ください。

なお、パスワードは暫定のもので、ログイン後必ず新たなパスワードを設定してください。また、現時点でのご自身の会員情報をご確認いただき、変更がある場合は更新してください。よろしくお願いいたします。（篠崎大司）

住所変更 お知らせください

JLEMでは、会誌の発送にクロネコメール便を利用しています。郵便は転居先へ届けるサービスがありますが、クロネコメール便ではお届けできません。住所変更の場合は、速やかに事務局までお知らせください。なお、会員専用サイトの運用が始まりましたら、住所変更はご自身で会員情報の変更をお願いします。

ご連絡先を お知らせください

下記の方々の連絡先が不明となっております。ご存知の方がいらっしゃいましたら、事務局までご一報ください。よろしく願いいたします。

大久保雅子、平明子、足立友野

下記の方々は、41回、42回大会で当日入会をされた方ですが、入会手続きが済んでいませんので、

jlem-ml@tiu.ac.jp 宛に以下の情報をお送りください。なお、下記の方々の中に、お知り合いの方がいらっしゃる方は、恐れ入りますが、上記メールアドレスまでご連絡下さいますよう、お伝えいただければ幸いです。

- ・氏名(ふりがな)
- ・郵便物送付先の住所と電話・ファックス番号
- ・電子メールアドレス

二色博樹、井上寛菜、吉田恭子、今川和、国府田直美、米野みちよ
(敬称略、4月19日現在)

会費納入について

8月末日までに2013年度の会費納入がない場合、9月の会誌の送付が中止されています。会誌が届いていない方は、封筒の宛名ラベルの納入年度をご確認ください。会費は年3000円です。

会誌やニュースレター発送の直前にご入金いただいた方は、事務

の手続き上ラベルの表示が前年度
になっていることもありますので
ご了承ください。

なお、研究会当日の会費の授受は原則行わないことにしております。以下の方法で会費を納入していただけますよう、ご協力お願いいたします。

1) 銀行のATMやネットバンキングを利用する場合：

銀行名：ゆうちょ銀行

店名：〇一八店（ゼロイチハチ店）

金融機関コード：9900 店番：018

預金種目：普通（または貯蓄）

口座番号：6907651

口座名：日本語教育方法研究会

※ゆうちょ銀行に口座がある場合、振込手数料はかかりません。

2) 郵便局より送金する場合：

「電信払込み請求書・電信振替請求書」（水色の枠のもの）を使用し、以下宛てにお送りください。

記号：10140

番号：69076511

加入者：日本語教育方法研究会

なお、上記振り込み方法は、ホームページの入会申し込みのページでもご案内しております。

*** 海外からの会費払い込みについては、国際郵便為替でお支払いください。**

会費をお振り込みいただいた方で、以下の方のお名前が会員名簿で確認できておりません。お心当たりの方

は事務局までお知らせください。

2013年3月21日付 3000円振込み
「カミヤ ケンジ」

2013年9月30日付 3000円振込み
「ガク）カナガワダイカ」

2013年12月16日付 3000円振込み
「李 榮」

(向井留実子)

問い合わせ先：jlem-ml@tiu.ac.jp

日本語教育方法研究会

<http://www.u.tsukuba.ac.jp/~matsuzaki.hiroshi.fp/JLEM/>

uzaki.hiroshi.fp/JLEM/

問い合わせ先：jlem-ml@tiu.ac.jp

(レター編集：本郷 智子)

新会長就任ご挨拶

衣川 隆生

2014年3月15日に開催された第42回研究会において、会長に選出された衣川隆生です。会長就任にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

日本語教育方法研究会は、2013年3月に20周年を迎えました。この間には、研究会の存続が危ぶまれる時期もありました。しかしながら、お互いの顔が見える距離で教育実践について議論できる研究会は存続すべき、という会員の皆様の声に支えられ、人間でいえば成人式を迎えることができました。これからは、日本語教育方法研究という領域で成人としての責務も果たしていかなければならないと感じています。

日本語教育方法研究会はその名の通り「日本語教育方法を研究する会」ですが、そもそも「日本語教育方法を研究するとは何をすることなのか」について、あまり議論されてきませんでした。そこで、20周年記念イベントでは、「日本語教育方法を研究するとは何をすることなのか」、「実践研究を継続的に行い教育方法の改善に繋げるために何をすべきなのか」という問いを参加者の皆様に投げかけ、それについて話し合い、これからどのように次なる一步を踏み出していけばいいかを考える機会を企画しました。

この問いに対する答えは、100人の参加者がいれば100通りの答えがあるものだと思いますし、日々変わっていくべきものだと思います。ただ、日本語教育方法研究会は、ポスター発表が中心であり、アットホームな雰囲気の中で1年に2回自分たちの実践について検証ができるという特色を持っています。この特色は、皆さんが問いについて繰り返し考える助けになると信じています。

はじめてホームページをご覧になった方や日本語教育を始めたばかりという方も大歓迎です。この研究会の最大の特色は「発表の機会を保証している」ことです。一人でも多くの方に研究会に参加していただき、お互いの経験を共有し、どのような一步を歩んでいけばいいかを一緒に考えていければと期待しております。研究会で皆様にお会いできるのを楽しみにしています。